

たんぽぽ うしん

第32号

〔編集人〕社会福祉法人 札幌協働福祉会／アクティビティー・サポートセンター協力会 牧野 秋夫
〒002-8055 札幌市北区篠路町福移 147-3 TEL：011-792-3969／FAX：011-792-2887
HP <http://sapporo-kyoudoufukusikai.jp> E-mail:info-honbu@sapporo-kyoudoufukusikai.jp
〔発行人〕北海道障害者団体定期刊行物協会 〔発行〕2015年6月10日発行(毎月10日発行) 〔定価〕20円



見守りは世代を超えた贈り物

あいの里2条4丁目町内会会長 柴田 登

私が見守りということを考え始めたのは、今から20年前、阪神・淡路大震災の復旧工事で500日を過ごした神戸でした。当時問題になったことに、中高年被災者の孤独死ということがありました。

被災者の中には身内を亡くし、働き口も無くした独り住まいの方も多く、寂しさや将来への悲観からうつになったり、自暴自棄から酒びたりになって健康を害し、孤独死に繋がったとされています。

ボランティア元年と言われた当時、見守りボランティアの方々が仮設住宅や復興住宅を回る姿がニュースでも報じられました。

3年前には札幌や釧路でも孤独死が発生しました。災害被災地でもない、沢山の目があるはずの都会にあって逆に目が行き届かない、亡くなられた側からの発信も届かなかったことに、何かしなければと

思った方も多かったのではないのでしょうか。ちょうどその頃から、この拓北・あいの里地区でも見守りボランティア事業がスタートしました。

最近、10年に亘って認知症の母親を介護した漫画家のコミックエッセイ「ペコロスの母」を読みました。これは立て、立てば歩めの親心が子を見守り、親が老いてはその子どもが親を見守る日常が温かい目線で描かれています。8年前に86歳で死んだ私の母は認知症ではありませんでしたが、読んでいて、姿が重なり涙が溢れました。見守りの原型を、親子が時間の経過の中で役割を交代する世代を超えた贈り物と考えれば、温かい気持ちで見守りを進めていけるのではないのでしょうか。

<柴田さんは連合町内会防犯部長でもあります。>

第15回

札幌協働福祉会主催

高岡・スウェーデンヒルス祭

◎日 時：6/13(土)11:45～15:00

◎場 所：石狩郡当別町高岡 1813-1
当別・高岡アクティビティーセンター
グラウンド特設ステージ

◎問合せ：当別・高岡アクティビティーセンター
TEL:0133-25-3661



写真／昨年の高岡・スウェーデンヒルス祭

無料送迎
バス運行

毎年恒例の
お楽しみ「抽選会」
もあります!

行事予定

《拓北・あいの里地域の行事予定》

- 6月21日(日)～22日(月)
拓北・あいの里会長一泊研修
- 6月28日(日)
第13回 あいあいウォーク

《札幌協働福祉会の行事予定》

- 6月10日(水)
第12回 さわやかパークゴルフ大会
場所：茨戸川緑地
- 6月22日(月)～7月18日(土)
札幌協働福祉会 各事業所夏キャンプ



新施設長紹介



当別・高岡アクティビティーセンター施設長に…

当別・高岡アクティビティーセンター 施設長 高山 正人



私 遡る事、平成13年4月にサポートセンターが入所施設として開設した際に料理長として初めて札幌協働福祉社会のお世話になる事になりました。

入職したばかりの私は施設のことは未知の世界でわからない事ばかりでしたが、食事に関しては専門分野でしたので、腕を振るう事ができました。この間、5年間サポートで勤務させていただきました。

平成18年10月に当別・高岡アクティビティーセンターが就労移行支援と生活訓練事業所として開設。ここでは工場長としてユーザーさんと一緒に働かせていただくことになり、工場では初めて包丁を使う人、計量カップを使う人、計りで重さを測る人…、ユーザーさんにとって経験が少ない方がほとんどで教える事の難し

さ、ユーザーさん同士の些細な事での揉め事など、色々と考えさせられたり、教えられたりの毎日でした。今、振り返るといい経験となっているような気がします。

高岡は自然あふれる場所で、夏の広々とした緑の中での活動はユーザーさんにとって良い環境と居心地の良い場となっているようです。

活動内容は、加工食品の製造で漬物・ジャムの製造・販売、厨房での給食作り、施設内外の清掃業務、また、老人施設での施設外就労、園芸作業、絵画、音楽活動、小物制作、散歩、ドライブなどを行っています。

活動を通して、作る喜び・売る喜び・食べる喜びなど、一日のリズムで自分らしさを表現できる施設にして行きたいと思っていますので、これからも当別・高岡アクティビティーセンターをよろしくをお願いします。

新人職員紹介

～2015年度 その①～

今回より2015年度の新人職員を紹介していきますので、よろしくお願いします。
アンケートの内容は下記の通りです。

- ①出身地(都道府県と市町村名) ②趣味・特技 ③好きな食べ物 ④尊敬する人 ⑤夢・目標

あいのさと アクティビティーセンター 安達 真利奈



- ①芦別市
- ②趣味：DVDを見ること
特技：お茶を点てること
- ③いちご
- ④J・Sさん
- ⑤明るく生活したいです。

あいのさと アクティビティーセンター すずき あんな 鈴木 杏菜



- ①札幌市
- ②バレーボール
- ③ハンバーグ
- ④母
- ⑤周りの人が笑顔になれるような支援員になることです。

あいのさと アクティビティーセンター 安宅 留美子



- ①江別市
- ②趣味：ドライブ、温泉めぐり
- ③お寿司、スープカレー
- ④両親
- ⑤利用者さんやご家族、スタッフの皆さんに信頼されるようにがんばります。

あいのさと アクティビティーセンター 藤井 政行



- ①石狩市浜益区
- ②趣味：スポーツ観戦
特技：どこでもすぐ眠れること
- ③カレーライス
- ④誰からも慕われるような人物
- ⑤夢：田舎でのんびり過ごすこと
目標：1日1日を明るく過ごすこと

あいのさとサポートセンター 新田 美重子



- ①青森県むつ市
- ②趣味：映画やお芝居を見ること
- ③チーズ・チョコ
- ④尊敬する人：母、祖母
- ⑤犬と猫を飼う事。障がいを持つ方の家族・兄弟のサポートをする場を作れたら良いです。

あいのさとサポートセンター 家地 景子



- ①小樽市
- ②趣味：お菓子作り
特技：楽器演奏
- ③ハンバーグ・スイーツ
- ④両親
- ⑤猫が飼いたい！
一生懸命頑張りたいです！

あいのさとサポートセンター 佐藤 友希



- ①札幌市
- ②ギター演奏、絵を描く事
- ③何でもスキです！
- ④マザーテレサ
- ⑤ボランティアサークルを作る！
元気に笑顔でがんばる！

当別・高岡アクティビティーセンター 吉木 徹



- ①樺戸郡月形町
- ②釣り
- ③ウイスキーボンボン
- ④小泉達之氏
- ⑤家族で海外旅行

4/17(金)～18(土)

新人職員研修

新人職員研修を終えて

学園通りあくていぶ 施設長 田中 美千代

4月17日、18日と山の家きょうどうで新人研修が行われました。カメムシが大量発生していた山の家では、飛び回るカメムシに怯えながらの研修となりました。

1日目は辰田理事長から協働福祉会の理念について、宮野常務理事から人権や虐待について、その他法人の年間計画や職務規定についてを学び、夜は各施設長たちを交え、食事を取りながら交流を深めました。

2日目は、ロールプレイを行い、辰田理事長の名演技のもとでユーザーの支援方法について皆で考える時間となり、有意義な研修になったと思います。これから新人職員の皆さんには、現場で活躍して欲しいと思います。



真剣に宮野常務理事の講義を聴く新人職員



ロールプレイの様子

イベント報告コーナー

5/2(土) ~ 3(日)

地獄谷、倶多楽湖をめぐる 登別温泉 湯けむいの旅

余暇支援部の今年度最初の企画、登別温泉への一泊旅行が大型連休の初日2日にスタート。参加された皆さんは87名、5台の車両に分乗し車窓から満開の桜を眺めながらの道中でした。到着した登別の宿泊ホテルでは、湯につかった後の宴会也大盛り上がりで、ビンゴゲーム、カラオケ等で皆さんの潜在エネルギーが爆発。今回の旅行会は両日好天に恵まれ登別地獄谷、倶多楽湖(クッタラコ)等の観光も楽しみ皆さんの顔からは満開の笑顔がこぼれました。



地獄谷をバックに記念撮影



喜茂別の「きのこ王国」で昼食



倶多楽湖にて



道の駅「フォーレスト 276・大滝」でトイレタイム



アートセンターの皆さんの作品が展示されています



恒例カラオケタイム



みんなで「カンパイ！」



「ビンゴゲーム」最後の一人になりましたが...



夕食後の余興は「ビンゴゲーム」からスタート



2日目は地獄谷観光から



桜の木の下で

4/18(土)

まちづくりセンター所長歓送迎会



山田太郎氏が祝杯をあげる

転任された川口所長(左)と着任された伊藤所長(右)



4月18日午後6時、拓北・あいの里まちづくりセンター所長の歓送迎会が「拓北・あいの里地区センター」で開かれました。最初に拓北・あいの里連合町内会・松井正彦会長が挨拶に立ち、転任された川口道夫所長と着任された伊藤文彦所長がそれぞれで紹介され、会場からあたたかい激励の拍手が送られました。

4/25(土)

協力会総会、アクティビティーセンター改築祝賀会

4月25日午前、「アクティビティー・サポートセンター協力会総会」が拓北・あいの里地区センターで開かれました。総会では前年度の事業と決算の報告、続いて本年度の事業計画が説明され会場から今回の報告に数点質問が上がりましたが、宮野常務理事が答えに立ちご理解を頂きました。また総会では新年度の各事業所スタッフが紹介され会場から拍手が送られました。

総会終了後、改築したばかりの「あいのさとアクティビティーセンター」の見学会が行われ、皆さんは施設内を興味深く見て回りました。また見学会に合わせ改築祝賀会も用意され、参加された皆さんは会場でテーブルを囲みながら談笑、そして山田太郎さんのご発声で乾杯のグラスを上げこの日を祝いました。



左から辰田理事長、牧野協力会会長、宮野常務理事



各事業所の新年度スタッフの紹介



ゆったり広々とした施設内



改築したばかりのアクティビティーセンター



改築祝賀会の様子

4/28(火)

ふれあい交流会

4月28日午後、記念すべき第1回目の「ふれあい交流会」がにぎやかに開かれました。この交流会はそれぞれの誕生日を祝う会でもあり、今回は4月生まれの皆さんが対象でした。44名の参加者を集め、4月誕生日の皆さんは代表者からうれしいプレゼントを受けたり、自慢の歌声を披露したりと、会場の「ふれあいセンター」の床が抜け落ちるのでは?と心配するほどの盛り上がりでした。



参加者皆さんで「おめでとう！」



バースデーケーキを前に



自慢の歌声を披露

インタビュー 10

拓北・あいの里まちづくりセンター
所長
伊藤 文彦氏(48歳)



まちづくりセンターの人事異動で、前任の川口所長が異動し、後任に伊藤文彦氏が所長に着任されました。今回は伊藤さんにインタビューしました。

地域から信頼されるまちづくりセンターに!

▼市役所ではどんな仕事をされてきたのですか。

伊藤 広報課や札幌市立大学設置準備室、IT推進課、区役所では福祉助成係など幅広く仕事をさせてもらいました。振り出しは西区民センターです。ジャージを支給され、ネクタイのいらない部署で、役所の仕事のイメージと違っていましたが、区民講座や区民祭りなど地域の方々といふれあう仕事を3年間させてもらい、楽しかったですね。当時は民間のカルチャー講座と張り合っていたので、区民講座の企画に力を入れました。

▼思い出に残っていることは?

伊藤 広報課が9年間で一番長かったのですが、初めて担当した特集が「札幌の雪対策」でした。拓北・あいの里連合町内会が生まれる前の

平成6年でしたが、篠路東除雪センターに取材に行ったときのことを良く覚えています。篠路に家を建てたのは18年前ですが、その冬は大雪でバスが1週間止まりました。息子が少年野球をしていたので、あいの里には試合でよく来ました。地元に戻ってきた感覚でいま、張り切っています。

▼ご出身と趣味は?

伊藤 生まれは留萌です。趣味はドライブと日本酒ですかね。好きな作家は、村上春樹と角田光代、川上弘美などです。

▼最後に、今後の抱負を一言。

伊藤 人好きなので、町内のいろいろな方と良くなって、早く受け入れていただけるようになりたい。地域から信頼されるまちづくりセンターをめざします。

地域行事の紹介

連合町内会総会・表彰式・交流会

5月16日(土)午後、「拓北・あいの里連合町内会」の総会・表彰式・地区交流会が「拓北・あいの里地区センター」で開かれました。交流会に先立ち北区長、連合町内会会長それぞれからの表彰があり11名の皆さんに表彰状と記念品が手渡されました(写真・下)。続いて開かれた交流会では、最初に松井連合町内会会長が挨拶に立ち「安全安心のまちづくり」の推進と地域の高齢者へのケア施設町内会の取り組み等をお話されました(写真・上)。



山の家きょうどうを支える会☆会員大募集!!!

札幌協働福祉会は、2011年の東電福島原発事故以降、福島の子どもたちを招いての保養キャンプ「おもいきり夏(冬)休み in 北海道」を毎年、仁木町冷水峠の山の家で実施し、今年で9回を数えます。

また、乳幼児を抱えるご家族の避難・保養は通年で受け入れ、山の家滞在中のご家族は100を超えました。その中の15家族がすでに札幌などに避難移住しています。

29年目を迎えたチェルノブイリ原発事故はいまなお溶け落ちた炉心の処理ができず事故が続く一方、事故後に生まれた子どもたちにまで健康被害が広がっています。今年で5年目を迎える東電福島原発の過酷事故による放射能の健康被害はこれから深刻化し、長期に及ぶと予測されます。

私たちの取り組んできたこのプロジェクトも引き続き、取り組んでいかなければなりません。事業を支える財政的基盤と人的な体制をしっかりとさせるため「山の家きょうどうを支える会」(会長：竹田保)をこのほど、発足させました。ただいま、会員大募集中です。会員になって、山を家の活動を支えてください。

年会費/個人一口2,000円、団体一口5,000円

<会員特典>①年4回の「山の家通信」発行 ②山を家の宿泊料金割引 ③山の家「雲海ツアー」(5~10月)
④2口以上で、100%りんごジュースのプレゼント ⑤その他、楽しいイベントの参加特典などあり。

会員申込みは、お名前・ご住所・電話番号(あればFAXも)と会費口数をお書きいただき、下記郵便振込口座にご送金ください。【郵便振替口座番号】02720-4-102111 山の家きょうどうを支える会

余市郡仁木町東町緑ヶ丘114 TEL 0135-34-7005

※FAX 0135-34-7005 または Mail:node@mint.ocn.ne.jp でお申し込みいただければ、郵便振替用紙を送付します。

事業所紹介コーナー ⑩

障がい者地域生活支援センター (地域生活支援室)

【障がい福祉サービス事業】

共同生活援助 2008年4月開設

札幌市北区あいの里4条5丁目10-15

TEL 011-770-5220/FAX 011-770-5221

障がい者地域生活支援センターは、拓北・あいの里地区を中心に市内14カ所のグループホームを展開し、障がいの重たい方でも安心・安全・快適にそして豊かな生活が送れるよう支援しています。入居者も75名近くおり、大きな事業となっています。

法人の理念にも繋がりますが、障がいがあってもなくても自分らしく、多くの人々と広く関わり、心豊かな人間関係を築いていく。そして地域の皆様に理解していただきながら、スタッフ一同努力していきたくと思います。

上記の実現のために、様々な社会資源との繋がり、連携、必要な支援を行ってまいります。1つ目は、相談室との連携です。利用者の困っていることや各種相談



について対応していただき、情報の提供を行っていただくことや、地域福祉のネットワークを活用して解決へと繋げていくこと。2つ目は、利用者が自立した日常生活や社会生活を営むことができるよう居宅介護事業所(移動支援など)と連携することです。

最後になりますが、辰田理事長が法人研修で「魂をいれるのは現場スタッフの皆さん」と話されたように、スタッフ一人ひとりの福祉職員としての意識や質を高めていくことも重要と考えています。

利用される方々のよりよい生活を利用者の方々と一緒に考えながら尽力していきたくと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

【文責・障がい者地域生活支援センター 森 貴之】

あくていぶ厳選 2015 サマーギフト

◆当別町 味付 いとうジンギスカンセット

ジンギスカン 500g×4 **3,700円**



◆そうめん・ひやむぎセット

1,900円 春夏秋冬だしの素500ml×1
そうめん220g×2、ひやむぎ250g×2

◆食べるりんごをジュースにしちゃいました2本セット

余市産食用りんご使用
無添加100%の早生ふじ果汁



限定 40セット りんごジュース 1,000ml×2 **1,700円**

お電話でのご注文 → **011-778-2377**
FAXでのご注文 → **011-778-2375**

6/25から受付開始!
7/1から配達いたします。

第1回マルシェ(朝市)は大好評!

■5月16日(土)10時より、「あくていぶ」前の特設会場で開かれた第1回マルシェ(朝市)はオープン前からお目当ての商品を求めて買い物客が並ぶ程でした。次回は6月第三土曜日、会場、時間も今回と同じく予定しています。どうぞ次回もいらして下さい。お待ちしております。



次回 6/20(土) 開催!

全商品全国送料無料

※掲載商品はほんの一例です。他多数の商品を取り揃えておりますので、お気軽にお問合せ下さい。

「自然志向の店 あくていぶ」は障がい福祉サービス事業として就労支援を行っているお店です。



■営業時間 平日 10:00~17:00

■定休日 土曜・日曜・祝日

<http://sapporo-kyoudoufukusikai.jp/main/>

札幌市北区あいの里3条4丁目9-1(歩道橋すぐ横)
TEL 011-778-2377 FAX 011-778-2375

山の家通信

【北海道～福島】野菜便にお礼の手紙

「放射能に汚染されていない安全で新鮮な野菜を」ということで、月1回トラック便や宅急便で北海道の野菜を届けて、3年目。農家さんや直売所から仕入れて送る野菜たちは安全安心だけでなく、「新鮮でおいしい」と評判をよんでいます。いつも心待ちにしてくれている野菜便。福島のお母さんたちからお礼の手紙が届きました。一部を紹介します。



仁木町冷水峠にある当法人の保養施設「山の家きょうどう」からの通信を掲載します



福島のお母さんたちから届いたたくさんのお礼の手紙

「避難できなかった負い目ではありませんが、親として子どもにできるのは安全な食べ物を食べさせること」(川俣町Sさん)

「次男の甲状腺のエコー検査“異常なし”の判定でした。この先もずっと心配しながらの生活ですが、福島に住んでいながら食の安全が守れるのも、皆様のお陰です」(同Tさん)

HSK たんぽぽ(うしん) 第32号

昭和48年1月13日 第3種郵便物認可 HSK通巻519号

[発行] 2015年6月10日発行(毎月10日発行) [定価] 20円

[編集人] 社会福祉法人 札幌協働福祉会

アクティビティー・サポートセンター協力会 牧野秋夫

〒002-8055 札幌市北区篠路町福移 147-3

TEL: 011-792-3969 / FAX: 011-792-2887

[発行人] 北海道障害者団体定期刊行物協会 細川久美子

◎住所変更や送付不要の方は、電話またはFAXにて下記までお知らせ下さい。

社会福祉法人 札幌協働福祉会
アクティビティー・サポートセンター協力会
TEL011-792-3969
FAX011-792-2887 (福田、松岡)